

タイトル：AA研フォーラム

日時：平成24年1月19日（木曜日）午後1時30分より2時30分

場所：AA研304室

報告者名（所属）：呉英喆（AA研外国人研究員）

報告タイトル：契丹語の動詞接尾辞について

契丹語とは10世紀初めに契丹（遼）国（907－1125）を建てた契丹人の使用した言語である。契丹語を記録する文字には「大字」と「小字」の二種類があり、それらは12世紀の末ごろに廃れ、契丹語は死言語になった。

1922年にベルギーの宣教師L.Kervyn氏により、1935年に日本人の医者山下泰蔵氏により、それぞれ契丹小字と契丹大字の資料が内モンゴルで発見された。それ以降、契丹文字の資料の多くは、中国北方・モンゴル国及びロシアなどから見つかった。

1970年代、契丹文字の研究は中国の研究者により進展し、契丹語の音声・文法及び語彙に関する具体的な研究が可能となった。本発表では、契丹語の動詞接尾辞に関する先行研究を総括し、接尾辞の分類に関する発表者の意見を提出した。意味が確認できる動詞を整理し、幾つかの動詞接尾辞を新発見した。そして、中世モンゴル語と比較検討し、契丹語の動詞接尾辞の発音と特徴に関して提案した。